鹿児島戦記
初号
上

A421
1

篠田仙果 編
永島孟亟 画

# 繪本 鹿児嶋戰記

東京 青盛堂 板

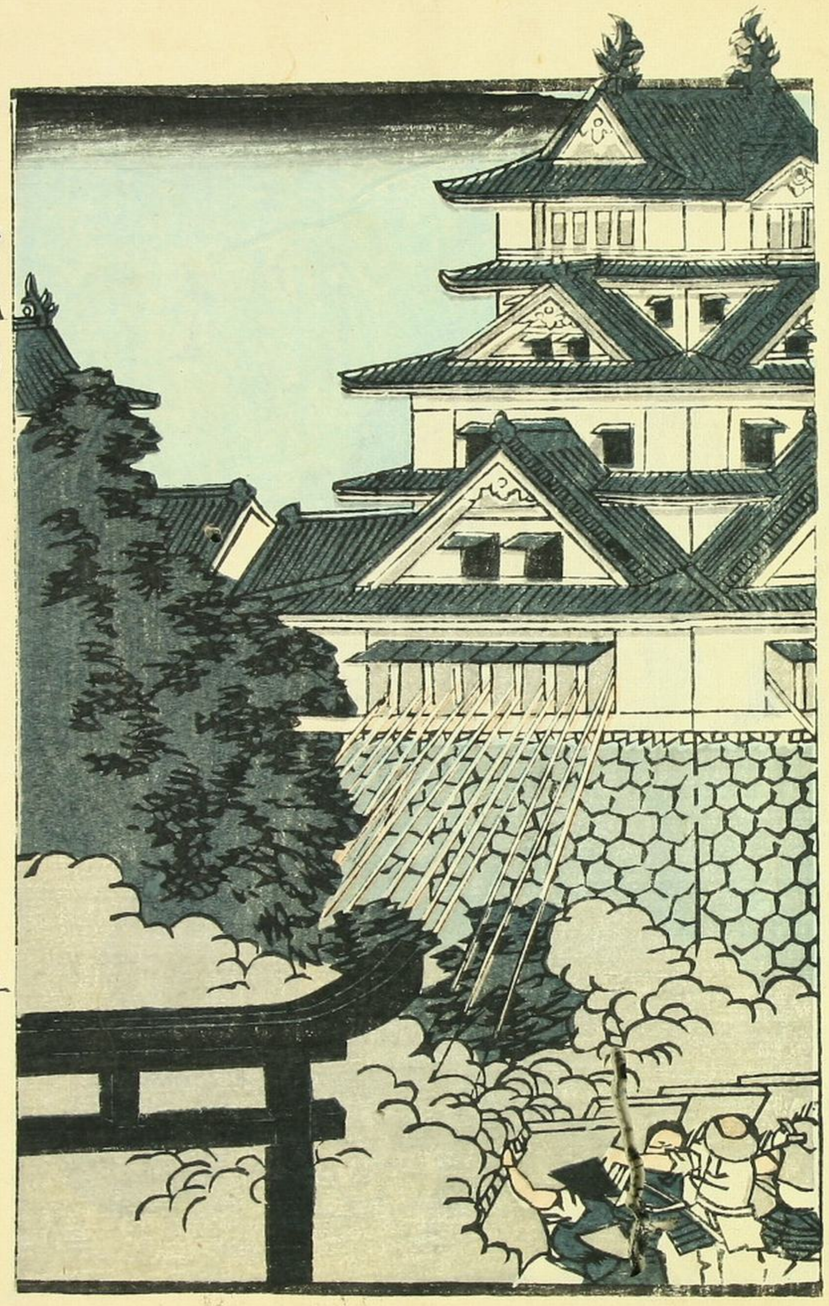


## 緒言

春なれど未だ去やらぬ寒氣は恐れ、銃砲汁も好まく。空然こなせし眠気覚しに。急須は入れる茶の受と鉄砲玉とは時世の菓子。鐵砲垣に鎗梅ちらし。答びる南窓を。青盛堂の主人が音信。鹿兒島戰記を錄ふと気も毛。ハイと兼諾ても筆もこのらぬを。未だ出来ぬうと矢の使ひは。無鉄炮ら記しるい。當るとゆふを祝ぎまん

明治十年二月下院　篠田仙果

48-7361



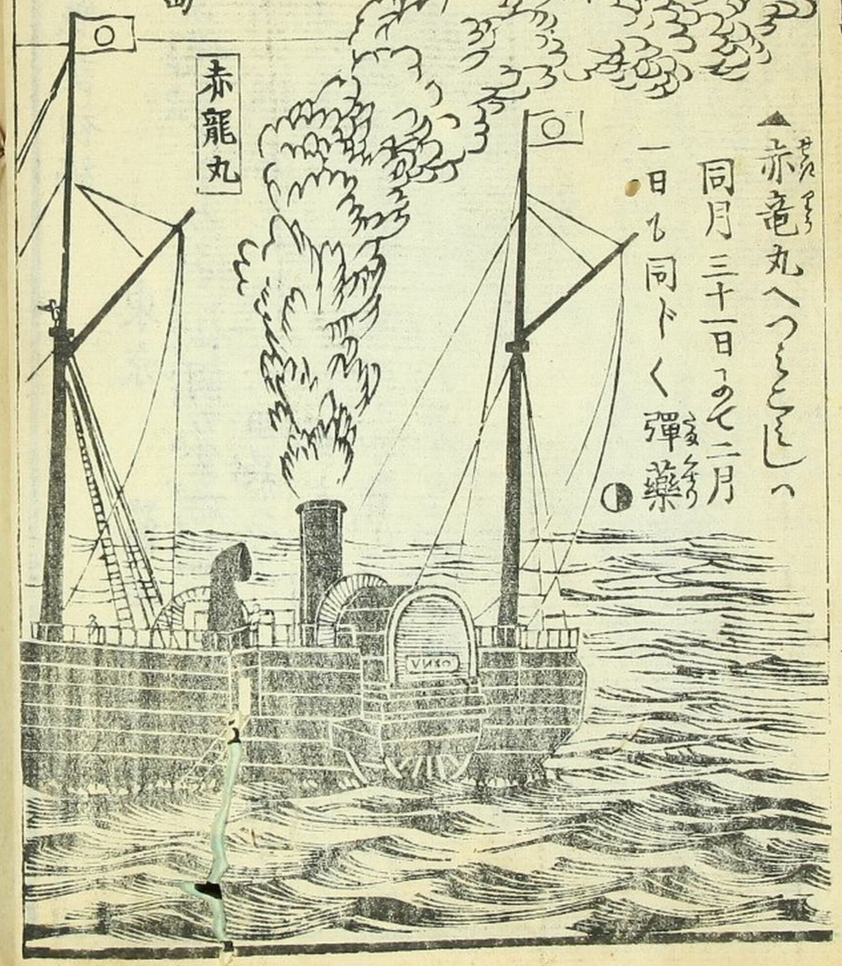
鹿兒島乃
暴徒等熊
本城を鎮
臺兵と激
戰ス

# 繪本鹿兒島戰記初編

東京　篠田仙果記

近世五大洲中ゆ英名をとゞろ色仏國の拿破崙はじめ「ジャシヨ」迄書生より出ると亀鑑とて塾生ら粗暴なる行ひせし者これまでも江湖上ゆゑ閑世と屢あり茲ゆ前陸軍大將兼參議西鄕隆盛氏維新の功を奏し明治六年職を辭せしゆ賞として二千石ありけゝ西々氏これを辭せしゆ朝廷許しあらざれば恩賜二千石の金と以て鹿兒島縣下ゆ私學校を設置せしゝ同縣士族の青年輩いゝゝ生徒とあらるゝ文を拾ひ集め武道のみ修行せし時ゆ明治十年一月下旬右私學校生徒らゞ暴挙のみどゝ風ゝゆゆるゆ士族生徒らいさくより容易ならざる所の密謀と企るよし確証も有之ゞ政府より注意せられ本年一月廿七日大坂鎮臺の命をうけ陸軍の士官數名三ツ菱の郵便汽船赤竜丸ゆ乘り組まれ大坂を

▲赤竜丸へつとをしへ
同月三十一日このそ二月
一日も同ドく彈藥
◐出帆し大隅の沖より佐田の岬と右へ
ゆ世ゆ薩ノ冨士とゆゆ海門が
岳の麓海門
口より十三里
入りて鹿兒島
港ゆ着せ
ぐ濱つぐき






ある磯町の
瀧の上とゆる
地ゆある陸軍
省造舟所ス
畜へあり
彈藥二千
匣と馬ゆ付
又ハ人歩ス
負せる
ぐて

◐千五百匣とゝぶ
出せ
同縣の士族生徒らがその
勢二千五六百人ひとく
群り來り馬士人足と
遮ゆ止め否といで切り
とそんと暴威とあり
彈藥をとぐく奪ひ去り
いり陸軍士官ゆ詮方なく
赤龍丸と出帆せり
学校ゆ集會ゆ
赤竜丸帰帆
遂て暴徒らハ
各服誠ゆ及びるハ
ばゆ不日に兵を向られゑん

左あらば此方は
十分のその
手當つて手
べし但し
艦
攻めるとも
港内工臺
場あり
祇園洲の
暗礁あり
先年
英國
軍艦

▲阿久根より長崎へ
出る左の平坦な
れどこれすら
乃時狹られば





彼の洲ふのうち船底にて
敗亡をとることあれど
たゞ手くばいることと
かつて且大隅の櫻島と
薩州なる瀬戸乃
間ゆづり二丁有
余なれば此所
あてゝ食止めべし
又陸つゞきなれば
色の道は
嶮嶂なる
九十九折

車馬の通行思ひもよらぬ
鎮臺兵も恐るに足らず唯彈
薬を富めべし先今宵機所なる
陸軍の造船所と同じく
砲兵扇
廠へ
あせ彈
薬を
奪ふ
べし又長
崎表ホ玉
薬をべに小
銃二万挺賣

物あること同じ[illegible]れば右品とも買とる
[illegible]の上地名の製
造所に設けある弾薬
器械は日々三十発
出来[illegible]せべし
[illegible]若
夫[illegible]不足とあらば近國の
士族へ依頼い遣送[illegible]あるべきあり
各々支度[illegible]されよと二タ手
ふ[illegible]れ押出し一トまへ
弾薬製造所一トまへ
[illegible]兵屬敵ふ乱入ート
[illegible]レ銃スナイドル

銃[illegible]ひふ弾薬若干と
[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]ひ[illegible]めよーと
引あげーう翌日暴徒長崎へ
[illegible]う弾薬数十行買とり猶
元[illegible]銃二万挺[illegible]ど賣りの
あくーと買うんとせーしそ
[illegible]最も怪[illegible]ば[illegible]寺問の
末見顕され数名捕
縛ふつ[illegible]る
扱も生徒[illegible]もの
勢ひ[illegible]
[illegible]の顛末出府の
上委細上申つ[illegible]べーと

鹿兒島縣一等屬渋谷彦助君ハ有川弥九郎の持舟なる三邦丸に乗込まれ鹿兒島港を出帆せんと錨をあげるそのとき七生徒ら夫と

▲疾くも渋谷と逃さじと討とれと港口まで来りしに最早無船にて海とへだてられが三邦丸を碎んと大砲を打ぶつけれど彈丸い船をかすりつて翔られ

渋谷氏





三邦丸

ハ危くも三邦丸ハ出帆ハ異ま

神戸へ着し給へば
同所より三ツ菱の
東京丸乘込
神戸を出帆し二月
九日午後二時ごろ横濱へ
着されたり
○暴徒の事件を各所
より日々の電報数千通
ゆへ鹿兒島縣下の近傍を
非常監護の為とて
巡査六百名スナイドル銃一挺
づゝ警部へピストルを準備
つかまつり綿貫少警視ハ二百

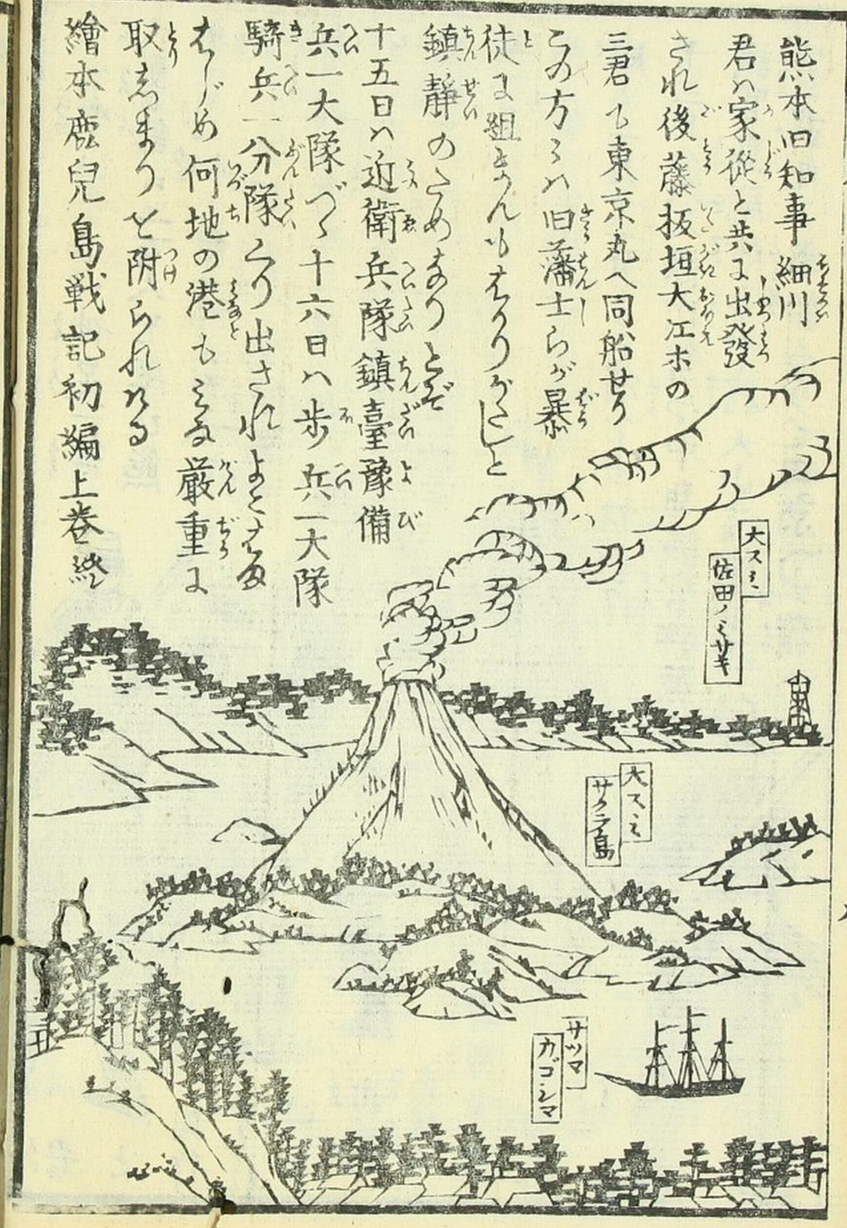
▲あり
十四日ゆへ
日下部
大書記
官幹事
河野
敬錄
あり
びに
上州
の旧
知事
山内

人を率ひ長崎へ神足一等
大警部い二百人を率ひ熊
本へ川畑大警部ハ百人を
率し佐賀表へ重信權少
警視い百人を率ひ福
岡へ出張し外ハ百五十人
増加られ品川内務大書記官
石川中警視の諸君も
三ツ菱の金川丸へのり
組こ二月十一日より濱を出帆され
十三日へ大久保内務卿中島議官柳原
議官鳥尾陸軍中將大山陸軍少將
ハ玄武丸に乘船あり て西京へ出發▲

君と
同行
せられ
同日
近衛
兵隊
一聯隊東京
丸へのり組

熊本旧知事細川君の家従と共に出發され後藤板垣大江ホの三君も東京丸へ同船せり
この方こは旧藩士らが暴徒に組せんもそうらうとと鎮静のためまうとぞ
十五日は近衛兵隊鎮臺豫備兵一大隊づゝ十六日は歩兵一大隊騎兵一分隊づゝ出されよとぞ
そうじめ何地の港もこゝ厳重に取ましまうと附られる

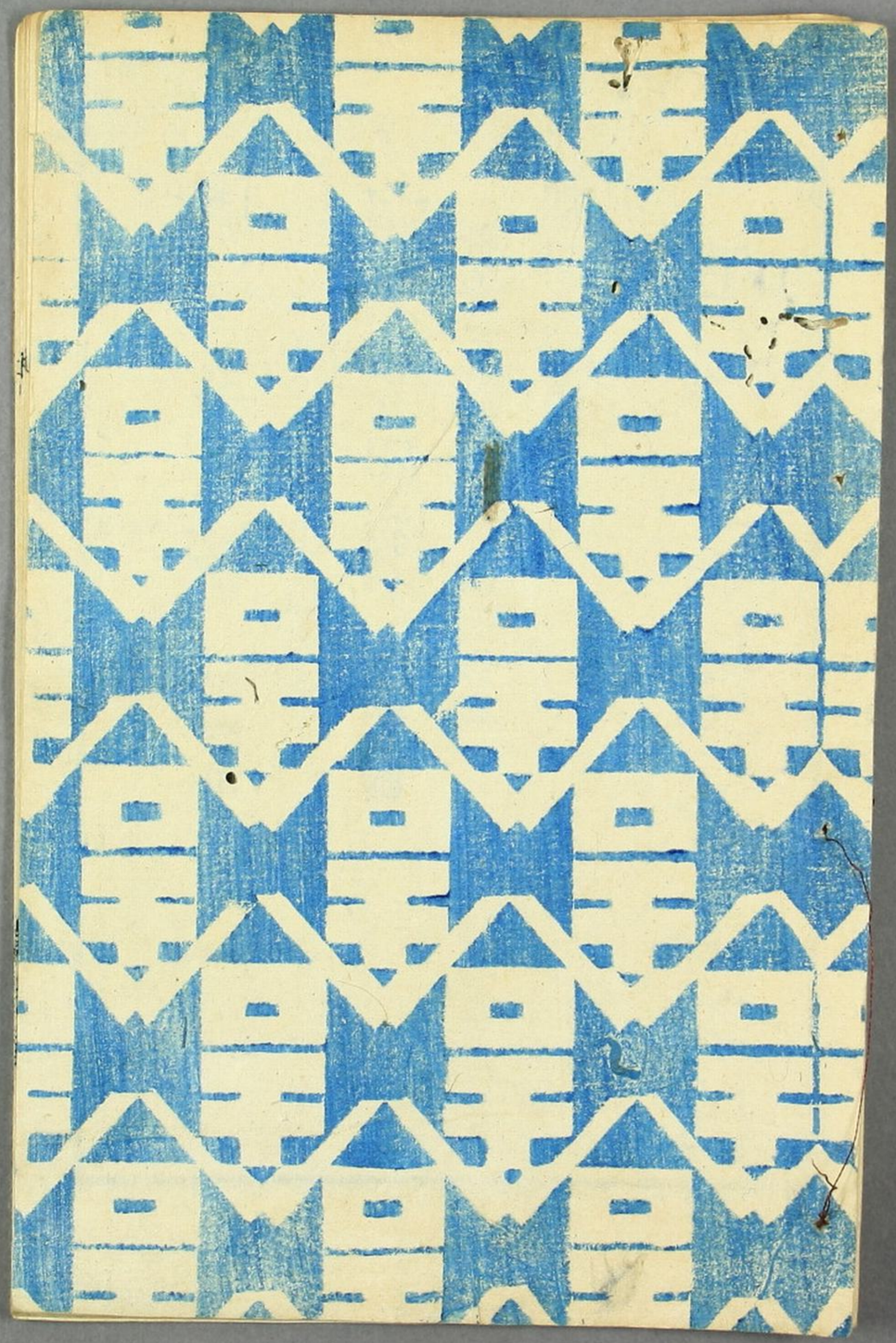
繪本鹿兒島戦記初編上卷終




# 明治十年二月廿六日御届

定價六錢五厘


下谷上野町一丁目十二番地
編集人　篠田久次郎
米沢町一丁目七番地
出版人　堤　吉兵衛


010190509805